

1. 日・ザンビア官民インフラ会議(1月12日)

- (1) 日 時 : 平成29年1月12日(木)
- (2) 場 所 : ザンビア共和国 ルサカ市内 インターコンチネンタルホテル
- (3) 主 催 : (日本側)国土交通省 (ザンビア側)住宅インフラ開発省、公共事業調達省
- (4) 参加者: 両国で約380名
(日本側の主な出席者) 国土交通省(末松国土交通副大臣、麦島官房審議官、森官房参事官)、在ザンビア大使館(側嶋大使)、JICAザンビア事務所(野田所長)、日本企業(アフリカ・インフラ協議会の建設、コンサル、商社、メーカー等 19社)等 約60名
(ザンビア側の主な出席者) チトテラ住宅インフラ開発大臣、ムシンバ通信運輸大臣、現地インフラ関連企業等
- (5) 概要:
- ① オープニング・スピーチ(冒頭挨拶)
- 会議冒頭、チトテラ住宅インフラ開発大臣、末松国土交通副大臣、アフリカ・インフラ協議会(株)フジタ 奥村代表取締役社長、側嶋大使より、挨拶を行いました。

<末松国土交通副大臣の挨拶概要>

「「国家ビジョン2030」や「第六次国家開発計画」で示している様に、インフラ整備がザンビア政府の重要な課題。内陸国であるザンビアでは、交通インフラ整備により、モザンビークのナカラ港やマラウイ等の周辺国・地域をつなぐナカラ回廊の重要な中継地として、中部アフリカ地域の物流の要所として、大きな発展の可能性が見込まれる。インフラ需要への対応にあたり大切な視点が「インフラの質」。本日の会議は、日本企業19社が出席し、我が国が世界に誇る取組を共有する。本日の会議は、質の高いインフラの理解を深めるファーストステップであり、両国の経済関係の更なる強化に向けたキックオフ。今後の両国の相互理解が促進され、ビジネス関係がさらに発展することを期待。」

末松国土交通副大臣のオープニング・スピーチ(冒頭挨拶)



オープニング・スピーチ(冒頭挨拶)の後、基調講演、カンパニーセッション(企業紹介)、署名式、ワークショップ及びビジネスマッチングを実施しました。

② 基調講演

基調講演においては、国土交通省森官房参事官より「日本の質の高いインフラ」、住宅インフラ開発省ムショタ次官より「ザンビアのインフラ開発」、JICAザンビア事務所野田所長より「ザンビアにおけるJICAの協力プログラム」、住宅インフラ開発省官民連携局サカラ局長より「官民連携の概要」のプレゼンテーションを実施しました。

基調講演の様子



日本及びザンビア共和国の代表



③ カンパニーセッション(企業紹介)

カンパニーセッションにおいては、我が国インフラ関連企業(アフリカ・インフラ協議会)19社(アフリカ・インフラ協議会)の代表が登場し、「質の高いインフラ投資」の実績や技術等についてプレゼンテーションを実施しました。

④ 署名式(「質の高いインフラ投資」推進及び協力関係の継続に係る覚書に署名・採択)

末松国土交通副大臣は、チトテラ住宅インフラ開発大臣との間で「質の高いインフラ投資」推進及び協力関係の継続に係る覚書(別紙)に署名・採択しました。覚書においては、「質の高いインフラ投資」の推進に向けて、「日・ザンビア官民インフラ会議」の後も対話を継続するため、定期的に意見交換する枠組み「質の高いインフラ対話」(“Quality Infrastructure Dialogue”)を立ち上げ、対話を継続することで合意しました。また、本邦インフラ関連企業3社も、ザンビア建設委員会(NCC)との間で、インフラ分野に関する協力の覚書に署名しました。

署名式(末松国土交通副大臣とチトテラ住宅インフラ開発大臣) 署名式(日本企業とザンビア建設委員会)



⑤ ワークショップ

参加者の関心に応じ、「建設業における協力」「質の高いインフラ構想」「ライフサイクルコストを考慮した道路・橋梁」「質の高いインフラの最先端技術」の4テーマに分かれてワークショップを開催し、日本企業やザンビア側機関からのプレゼンテーションの後、活発な質疑応答、意見交換が実施されました。

⑥ ビジネスマッチング

日本企業が個別のブースに分かれ、関心を有するザンビア企業等と面談を実施しました。活発な情報交換を行い、日本企業とパートナーとなり得るザンビア企業等との間で関係構築を行いました。

2. ザンビア共和国政府要人とのバイ会談(1月13日)

末松国土交通副大臣は、チトテラ住宅インフラ開発大臣及びンクワ公共事業調達大臣と会談を行い、TICAD VIの成果や官民インフラ会議の結果を踏まえ、「質の高いインフラ」投資推進に向けた協力関係を強化することで一致しました。また、道路整備や病院建設など各種インフラプロジェクトについて意見交換を行いました。さらに、同行した我が国インフラ関係企業等(アフリカ・インフラ協議会)を紹介しました。

ンクワ公共事業調達大臣からは、日本の訪問団を歓迎するとともに、ザンビアにおけるインフラの現状(道路インフラ、電気、住宅をはじめ、全セクターで依然として開発が必要な状況)について説明があり、日本の支援に対する感謝と協力への期待が表明されました。

チトテラ住宅インフラ開発大臣からは、会議の成功を喜ぶとともに、日本への期待について説明があり、署名した覚書に基づき、会議のフォローアップとして4月に「質の高いインフラ対話」を行うことを確認しました。

3. その他(1月12日、13日)

末松国土交通副大臣は、アフリカ各国閣僚や我が国インフラ関係企業等(アフリカ・インフラ協議会)を交え、ネットワーキングのための懇談会等に出席したほか、インナーリング道路(TOKYOWAY)やルサカ郡病院といった我が国の質の高いインフラのザンビア展開事例を視察しました。ルサカ郡病院では、チルフヤ保健大臣が日本の訪問団を歓迎しました。

チトテラ住宅インフラ開発大臣
及びンクワ公共事業調達大臣とのバイ会談



チルフヤ保健大臣を同行したルサカ郡病院視察

